

授業科目名： 幼児理解の理論と方法		教員の免許状取得のため の必修科目	単位数： 2 単位	よしえさちこ 担当教員名：吉江幸子
				担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)		幼児教育現場で勤務経験がある教員（幼稚園教諭免許一種、保育士資格保持者）により、幼児の発達の側面と教育要領の 5 領域の関連を解説する。		
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児理解の理論及び方法		
「学位授与の方針」との関係 ディプロマポリシー-B 及び C に対応する科目である。				
授業の到達目標及びテーマ 幼児教育に携わる者にとって、幼児の発達段階の諸相を知ること何よりも求められるところである。幼稚園教育要領では、健康・人間関係・環境・言葉・表現の 5 領域にわたりまとめている。この 5 領域で取り上げられたねらいと内容についてよく理解し、自分が接している幼児たちの言動をよく観察し、一人ひとりの幼児のニーズを的確に把握することが大事である。保育者の幼児たちに対する接し方、指導の適否が幼児たちの成長発達のカギを握る。一人ひとりの幼児に対する適切な理解と活動への支援は、幼児教育に対する的確な理解があってこそできることを理解する。				
授業の概要 (1) 幼児理解の意義と保育者の役割 (2) 幼児の発達と遊び・学び (3) 日常の保育活動において求められる保育者の援助 (4) 家庭との連携の大切さ (5) 保育者の省察とカンファレンス				
授業計画 第 1 回：幼児理解の意義とは 第 2 回：幼児理解と保育者の役割 第 3 回：保育の計画と環境構成 第 4 回：幼児の発達と遊び・学び 第 5 回：登降園場面における保育者の援助と保護者対応 第 6 回：幼児の遊びの発展と保育者の援助 第 7 回：協同する経験と保育者の援助 第 8 回：幼児のトラブルと保育者の援助 第 9 回：食育に関する活動と保育者の援助 第 10 回：「障害児」への理解と援助の方法 第 11 回：家庭との連携と保育者の援助 第 12 回：保育者の省察を促すための観察と保育記録 第 13 回：保育者の省察とカンファレンス 第 14 回：保育実践サイクル				

第15回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングでは授業計画第2～第4回及び第12回を中心に、アクティブラーニングの手法も用いて学修する。

教科書

- (1) 文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年3月告示）』フレーベル館
- (2) 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』フレーベル館

参考文献

- (1) 沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林, 2019.
- (2) 塚本美知子編著『改訂 子ども理解と保育実践』萌文書林, 2018.
- (3) 無藤隆『幼稚園教育要領ハンドブック』学研, 2017.

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。